

塊状サンゴ (*Porites* sp.) の骨格腫瘍部における化学成分変動Variations of environmental proxies in a skeletal tumor of *Porites* sp. coral

井上 麻夕里 [1]; 鈴木 淳 [2]; 山城 秀之 [3]; 中野 義勝 [4]; 安田 直子 [5]; 野原 昌人 [6]; 川幡 穂高 [7]

Mayuri Inoue[1]; Atsushi Suzuki[2]; Hideyuki Yamashiro[3]; Yoshikatsu Nakano[4]; Naoko Yasuda[5]; Masato Nohara[6]; hodaka kawahata[7]

[1] なし; [2] 産総研・地質情報; [3] 名桜大・国際・観光産業; [4] 琉大・熱生研・瀬底; [5] 琉大・理・海洋; [6] 地調; [7] 東京大学海洋研究所

[1] none; [2] GSJ/AIST; [3] Dept. Tourism, Meio Univ; [4] Sesoko St., TBRC., Univ. Ryukyus; [5] Univ. Ryukyus; [6] GSJ; [7] ORI, U of Tokyo

近年、原因が特定されたものはまだ少ないものの、サンゴの病気に関する報告が世界中から相次いでいる。また致命的病気だけではなく、ポリプの減少や骨格の異常成長で特徴づけられる腫瘍を持ったサンゴも報告されている。このような骨格腫瘍は、環境復元に適した比較的大きく成長した群体に認められているが、その骨格中の化学成分変動についてはこれまで詳細に議論されていない。

そこで本研究では、沖縄より採取された一部腫瘍を持つサンゴ (*Porites* sp.) の腫瘍部と健常部における骨格中の化学成分変動を比較検討した。測定項目は、酸素・炭素同位体とストロンチウム・カルシウム比 (Sr/Ca)、マグネシウム・カルシウム比 (Mg/Ca) である。微小試料採取は群体の成長軸に沿って行い、Micromass 社製質量分析装置 OPTIMA を用いて酸素・炭素同位体測定を行った。また、微量元素については酸素・炭素同位体測定と同様の微小試料について Hewlett Packard 社製誘導結合プラズマ質量分析装置 (ICP-MS) を用いて測定を行った。測定の結果、腫瘍部における骨格中の酸素・炭素同位体比、 Sr/Ca 比、 Mg/Ca 比の変動幅はほぼ健常部と同じであり、異常値を示すようなことはなかった。しかしその変動パターンは、海水温や日射のような環境変動をほとんど反映しておらず、このことから腫瘍を持った塊状サンゴは環境復元に適していないことが示唆された。